



Kainan East Rotary

DISTRICT 264

CLUB WEEKLY BULLETIN

事務所 海南省日方1294 海南商工会議所内 TEL (07348) 3-0800

例会日 毎週月曜日 12時30分 ♣オ1例会のみ 18時30分 於海南商工会議所 4F

会長 土岐甚五郎 幹事 中尾公彦 会報委員 広野・谷口・大川・中道・片山

オ405回 例会 昭和58年10月24日(月) 午後 12時30分 於 海南商工会議所

1. 開 会 点 鐘 土岐甚五郎会長
2. ロータリーソング 「手に手つないで」
3. ビジター紹介 前田高道様(和歌山R.C.) 野村 實様(海南R.C.)
4. ゲスト紹介 伊井智昭師
5. 出席率の報告 会員総数 54名 出席者数 46名 出席率 85.19%
前回修正出席率 90.74%
6. 会長スピーチ

今日は、全国的に寒波が襲いまして寒い日となっております。私も、この間から色々な公式行事が続きまして疲れたせいか、この寒波にやられまして若干声を詰まらせている様な現状です。色々な公式行事がほぼ終りまして、ちょっとほっとしている風な状態ではございます。申し遅れましたが、ゲストの伊井先生有難うございます。それから、前田様、野村様ようこそいらっしゃいました。

今日はどんなお話を承るのか、私聞いて居りませんが、ためになる様なお話を、伊井先生から承る事になってございます。先生よろしくお願い致します。

7. 幹事報告

- メイキャップ 10/19 海南R.C. 林孝次郎君 藤田益宏君
- 例回変更のお知らせ 和歌山北R.C. 11/7(月)→11/7(月)12:30~松下工場
- オ268地区年次大会ご案内 加古川R.C. 1984年3月23日(金)~25日(日)
加古川市民会館

8. 委員会報告 親睦委員会より

10/29(土) 7時より海南R.C.とソフトボール大会 於黒江小学校

9. 卓話 伊井智昭師(西本願寺集会議院、極楽寺住職)

こんにちはお招き頂き、ロータリーと云う会合に、初めてその雰囲気と味合せを頂けた事、大変有難く思っています。早速ですがこの海南省は、浄土真宗の発祥の地に近い訳です。と云うのは冷水と云う所に了賢寺という寺がありますが、その了賢さんが蓮如上人に帰依されまして、爆発的に信者をふやし、次々と発展して行った訳です。だから真宗発祥の地へこさして頂き、お話させて頂く訳です。

最初に、会食させて頂き気付いた事は、皆さん方御飯を食べられる時、さっと箸を取られますが、私が来させて頂いた事を奇縁に是非「いただきます。ごちそうさまでした。」の挨拶をしてほしいと思うのです。と言うのは此の頃、家庭内暴力とか学校内暴力とか非常に喧しく言われて居りますが、その事の基本に、挨拶がなされ

てないのが多いのです。だから出来れば、家族一緒に食事をして「いただきます。」と言う事は、家庭の和と言う事で大切な事ではないかと思う訳です。

扱、仏教の話と言う事なのですが、仏教の姿勢は「他を責める、他を裁く」と言うのでなく、「自分は、どうだろう」と問う訳です。大韓航空の事故でも、ソ連が悪いと言う論調が多かったのですが、仏教徒の考えは、原因をつくったのは韓国の飛行機で、国民がソ連の国旗を焼いたりするのは、自らの行為に対する反省がないと思う訳です。その結果として、罪もない一般の旅客機を落し沢山の人命を奪ったという事は、そこにソ連が非難される因がある訳です。このように物事を見て頂くと、もつれているものが、解決していくように思われます。

次に、極楽に行けるかどうかという事ですが、基本的に生きている間に、今何をしているのかという事が一番大事な事なのです。お釈迦さんは「諸行は無常なり」といって、「一切のものは、移り変わっていますよ」と説いて居ります。そして、「老いを逃れざる道を知らずして、老いを嫌うという事は誤りである」といって居りられるが、これは「一生懸命、老いを見る事で若い私は、何をすればいいのか」といって居るのです。だから私達は、今を粗末にせず、今出来る事は何かと考え精一杯生きるという事が、仏教の基本的な考えになる訳です。我々は、自分が正しいか正しくないか問わずに、人を裁いたり批判したりする時、相手の立場を考えず、自分の意見だけで批評する事を仏教で「邪険、（物事を正しく見る事が出来ておられない）」といいます。この物の見方をするから差別がこうじ、同和問題、身障者問題とかあらゆる差別が、私達の廻りにある訳です。その現実を目をそむけて何をいっても駄目なのです。だから、お釈迦様は「慙愧の心あるものを人間と成し、慙愧の心のなきものを畜生と成す」といって居ります。分り易くいいますと、人間の基本的な事は、自分をよく見て行く目を持って居るといふ事と、他を尊敬して生きるという事、そして自分の命は、自分が偉くて生きて居るのでなく、多くの恵みの中にあるという事なのです。

親鸞上人という方が、「本願力（仏さんの私を生かすという力）にあい、濡れば虚しくずぐる人と亡」といって居ります。だから皆さん方が、人間に生れて来て良かった、といって死ぬるだろうか。毎日を良かったと、生きられるだろうか、こう考えて頂きたいと思います。ここで、例え話を一つ致します。私は、去年の6月に大学時代の友人を亡くしました。彼は38歳で死んだ訳です。日頃壇家の人々に「百年長生きしても、喜びのない人生なら無駄な人生である。一日でも喜びにあう人生であったなら、尊い人生である」と話して居りました。奥さんから「ガンであと三ヶ月の命」と聞かされた後、ある本を一生懸命読み「救われて行かなければならないのは自分である」という事に気がきます。それから彼は、朝無事に目を覚ませた事、夜には、今日一日無事に過ごせた事を喜んだのです。そして子供たちに「お父さんと話したい時、仏前で「南無阿弥陀仏」といえばお父さんは、仏さんと一緒にお前達を見て居ますよ」といってこの世を去ります。彼は浄土へ生れたわけで、これを極楽参りといいます。我々は、自分の事を棚に上げ、ものをいっても極楽へ行けません。仏教徒の物の見方は、常に自分を棚に上げず自分を問いながら物を見て行く事が、基本的に大切である事を話させて頂きました。今日は、このご縁を生かして頂きたいと思います。どうも有難うございました。

ニコニコ・米山・BOX

前窪 紀文君 娘が無事に出産しました

宮田敬之佑君 仲人として、前窪さんのお孫さんの出産を祝して

大沢 祥宏君 伊井先生のゴルフ友達ですが、本日はようこそ

次回例会案内 昭和58年10月31日（月）PM 6：30 於 海南商工会議所

ゲスト卓話 市民病院（今井学級） 志場昌子先生